

2/9 早稿

論説

2022-2-9

子どもの感染増

対策徹底して守りたい



感染力が強いとの報道を繰り返すナ・イルス・オーバーの捲上での感染が子どもたちにも広がり、学級閉鎖や休校、保健所などの休園が相次いでいる。感染対策を徹底し、子どもたちを守らたい。

対策の一つかは、学校が守ることだ。消毒予防効果は子どもの高い意識度や、特に、重症化リスクの高い基礎疾患のある子たちの命を守るために、定期的除染がより得め。

厚生労働省は、週に約5千人を対象に公費負担による接種を始めた。その一方、専門家たちは子どもの多くは感染しても重症化しないことから、大人同様に接種を躊躇する必要があるのか、どういった機会が見出される。

施設などでの巡回では、一定の頻度で出勤しない状態が見られる。感染期の子どもへの接種は、健康への長期的な影響を考慮する保護者が少なくないことがわかった。

ワクチンのバツシートが、スクリントに開ける正確な情報提供が欠かせない。自治体は接種者や子どもたちに十分に説明する必要がある。接種は希望者に限り接種しない子どもへの説明や偏見があつてはならない。

乳幼児が発症した場合、自分で症状を説明することができず、保護者が対応に苦慮する場合もあるだけ。自治体は一般向けの相談窓口を開設しているが、小児科医らの協力を得て、子ども専門の窓口を設置してほしい。

政府は幼児のマスク着用を推奨したが、子どもの姿勢には個人差がある。マスク着用は子どもの状況に応じて柔軟に対応すべきだ。

小学校などの学校現場では、手洗い＝写真、愛知県大山市で「やさしい」知識を教つた。

子育て世帯に対する保健所が休園になった場合、ほかの保健所で預かる「子育保健」を利用するなどの取組りも必要だ。政府は、子どもの休校や休園に対する助成金実績手帳の簡素化を表明したが、迅速な着付にも努めるべきだ。